

心のふるさと

群馬の校歌物語

高校編 9

沼田

「沼田高校の校歌を聞いて驚きましたね。本当に似ていたんです」。沼田市の会社役員、中井龍三さん(76)は50年近く前の出来事を、今もはつきりと覚えて

いる。中井さんの母校は静岡県の掛川西。仕事の関係で沼田

田市で暮らしていた。ある時、知り合いが歌う沼田の校歌を聞き、仰天した。テンポの良いメロディーが、母校の校歌とそっくりだったからだ。

両校の校歌は、メロディだけでなく歌詞も似ている。「基固めて桔梗の」(沼田)と『基定めて逆川の』(掛川西)、『うますたゆまず進みなむ』(沼田)と『めげず携ます崩折れず』(掛川西)など、同じような表現が複数ある。

【メモ】▼1897(明治30)年創立▼小泉清貴校長▼沼田市西原新町

城下町の歴史に思い

した。岩崎教諭は沼田と同じ城下町で街の規模も似ていた掛川の自然や歴史を思いながら、歌詞を完成させたのではないかと「メロディーは岩崎教諭の母校である国学院大の校歌から取ったのだろう」。両校関係者はこう推測する。

こんな経緯で生まれたとされる校歌だったからか、当時の小柏丑二校長はこの

掛川西の校歌ができたのは1904(明治37)年ころ、沼田は23年。年代も場所も異なる両校の校歌が似ているのはなぜか。鍵を握るのが、18〜21年に掛川中学校、22〜24年に沼田中学校に勤務し、国漢を教えた岩崎莞爾教諭だ。

沼田中校歌は生徒から歌詞を募集、岩崎教諭が補筆

沼田中校歌は生徒から歌詞を募集、岩崎教諭が補筆

歌を「正式の校歌ならず」と文部省に報告している。しかし、生徒たちは北毛の自然や歴史、そこで生きてゆく志を歌い上げた歌を校歌として受け入れ、90年近く歌い継いでいる。

第33・34回卒業生らでつくる「文殊の会」。代表の永島正三さん(81)や同会役員の木下進さん(80)らは毎年同期会を開いている。「私

たちにとっては大切な校歌。同期会では、旅館の客が驚くほどの大きな声で大合唱ですよ」と笑う。2人は今の生徒たちの校歌や学校への思いを気にか



校歌歌碑の前で、校歌への思いを語る永島さん(左から2人目)と木下さん(同3人目)ら

沼田高校校歌

作詞 不祥/岩崎 莞爾
作曲 不祥

北毛の要鞍城址
その高陵にわが校は
基固めて桔梗の
薫り行くこそめでたけれ

(1番抜粋)